

1. 留学生センター1年の歩み

富山大学留学生センターは、学内共同教育研究施設として、1999年4月に文部省（現在の文部科学省）省令により設置された。

富山大学は2004年に国立大学法人となり、2005年10月には富山大学（五福地区）、富山医科薬科大学（杉谷地区）、高岡短期大学（高岡地区）の県内3大学が再編・統合されて国立大学法人富山大学となった。統合後は、3地区から「富山大学留学生センター運営委員会」の委員が選出され、留学生センターの管理運営に関する重要事項について審議している。2010年度は、山本孝一センター長を委員長として、2回の運営委員会が開催された。

日本語教育部門では、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コースの3コースを開講した。日韓共同理工系学部留学生プログラムについては、日韓生の配置がなかったため、開講しなかった。各コースでは、これまでと同様に、専任教員がコーディネーターを務め、毎日の授業内容と学生の出欠状況を記録・閲覧できる「授業記録システム」を活用することによって、学習の進捗状況等を把握した上で日々の授業に取り組むことができた。日本語研修コースと日本語課外補講の初級クラスでは、合同授業化を進めた。日本語課外補講と総合日本語コースの授業シラバスは、英語版と中国語版での提供も行った。その他、日本語学習を支援するためのサイト「富山大学留学生センター日本語学習支援サイト「RAICHO」」の運営、留学生からの日本語に関する様々な相談に応じる「日本語相談」の実施も引き続き行い、本学で学ぶ留学生の日本語学習を多方面から支援した。

留学生指導部門では、留学生が留学生活で困難を感じる事がないように、異文化教育をはじめ各種オリエンテーションを実施した。また、異文化教育の一環として、異文化交流パーティー、ホームビジット、ホームステイ等の留学生と日本人間の異文化相互理解を深める活動を行った。さらに、留学生や日本人学生等に対する指導・助言および留学相談のための面談を行った。留学相談の面談に加え、海外留学に関する情報を提供するため「留学座談会」を開催し、留学体験記集『留学のすすめ』を発行した。

学部教養教育（五福地区）では、外国人留学生のために開講されている「日本語」と「日本事情」科目を担当し、総合科目である「日本事情」では担当教員が授業をコーディネートした。

2010年9月および2011年2月には、留学生指導の充実をはかるため、「富山大学留学生教育指導連絡会議」を開催し、留学生に関する様々な問題について、各学部および事務組織と情報交換・意見交換を行った。また、「富山県留学生等交流推進会議」総会後に開催される「留学生との座談会」では、参加留学生達への指導・助言に加え、司会を担当する等の協力をした。

留学生センター教員は、本年度もセンター業務を順調かつ確実に遂行した。今後も、留学生に対する日本語教育・異文化教育および支援の充実をはかる。